

## ◎ 聴読解問題スクリプト

### Track 6

1 番 先生と学生が教育学の授業で、高校生に対する自由研究の指導の仕方について話しています。この先生は、どの部分の指導が一番重要だと言っていますか。

先生：これは、私が以前、高校で生徒たちに配ったものです。そのときは、この順番で生徒が自分で好きな課題、つまり研究テーマを決め、レポートを完成させるという授業でした。では、どの部分の指導が一番重要だと思いますか。

男子学生：うーん……。 「現場に立つ」 っていうのは、実際にインタビューや調査をするので、そのための指導が必要だと思います。

女子学生：私もそう思います。それから、高校生だと、レポートの書き方自体もわからないんじゃないでしょうか。……テーマは自分が興味のあるものを選べばいいし、資料も図書館やインターネットを使って、自分で探せると思います。

男子学生：……ですが、中には、自分は何に興味があるのか、よくわからないという生徒もいると思います。

先生：はい、実はそこがとても大切なんです。資料探しも慣れない生徒には指導が必要ですが、何よりも、知ることが楽しくなるような課題を見つけさせなければなりません。それができれば、生徒は自分から学ぶようになります。主体的に体験させることが自由研究の目的ですから、ここの指導が最も重要なところです。

### Track 9

4 番 男子学生が、自分のWebページについて女子学生の意見を聞いています。この男子学生は、Webページをどのように変えることにしましたか。

男子学生：ほくのWebページに、この間書いた論文を載せることにしたんだけど、ちょっと見てくれる？

女子学生：ああ、これは論文の目次か。

男子学生：そう、章の見出しをクリックすると、その章が読めるようになってるんだ。デザインはこんな感じでいいかな。

女子学生：うーん、これ、中央そろえにしてるけど、頭がでこぼこなのは変な感じだから、左をそろえた方がよくない？

男子学生：あ、そうだね。

女子学生：それと、三つ目の「研究のきっかけ」っていうのはこの位置でいいの？ きっかけを書くんだったら、いちばん最初がいいんじゃないかな。ああ、でも、だいたい論文なんだから、きっかけ、ってのは書かなくてもいいんじゃない？

男子学生：うーん、でも、この順番で書いて提出しちゃったから、もう変更はできないんだ。ともかく、目次のレイアウトだけは変えることにするよ。

#### Track 11

**6 番** 先生が、企業の研究開発体制や、研究者・技術者の処遇に関するアンケート調査の結果について説明しています。それぞれの質問項目すべてについて全体的な傾向と一致する会社はどれですか。

えー、このほど、ある雑誌社が日本の主な企業101社に対して、顕著な業績を挙げた研究者・技術者をどのように処遇しているかについてアンケート調査をしました。ここにお見せしているのは、その結果をまとめたものの一部ですが、個別に見ていく前に、回答のあった全70社についての調査結果の全体的な傾向がどうであったかをお話ししておきます。

まず、調査項目1「顕著な業績を挙げた研究者・技術者に対する特別な処遇制度があるか」については、何らかの特別な処遇を行うという回答が多く見られました。また、2の「表彰制度があるか」では、特別なものは設けずに社内の一般的な表彰制度の中で取り扱った会社が最も多くを占めました。さらに3の「特許に対する報償金に上限があるか」については、「上限無し」と答えている会社が多いようです。そうすると、この表の中で、今お話しした全体の傾向にすべて一致する会社というところ、どれになるのでしょうか。

Track 13

8番 女子学生と男子学生が昨日降った雨について話しています。この二人の話から、昨日の雨の量は、「雨の強さと降り方」を示す表の中のどの雨量だったと考えられますか。

女子学生：昨日の雨，すごかったね。どのくらい降ったのかな？

男子学生：かなり強かったよね。駅からうちまでの5分ぐらいの間にびしょ濡れになっちゃったよ。

女子学生：傘，持ってなかったの？

男子学生：いや，傘はあったんだけど，それでもかなり濡れたよ。それに，道に水たまりがたくさんできて，くつの中まで水が入ってくるし。

女子学生：そう。大変だったね。私はちょっと車で出かけてたんだけど，ワイパーを使っても前がよく見えなくてこわかった。

男子学生：危なくなかった？

女子学生：まあ，高速道路でもブレーキはちゃんと効いたからね。

Track 15

10番 先生が授業で，リスクへの対応方法について説明しています。この先生が最後に挙げる例は，図のどの方法にあてはまりますか。

一般に，事故や被害，損失が生じる可能性のことをリスクと言います。この図は，事故や被害の影響と確率の大きさによってリスクを四つのタイプに分け，それぞれにどう対応すべきかを表したものです。例えば，図のAの範囲のリスクには，「リスクの移転」つまり，保険に加入しておくとか，被害や損失を他の組織に肩代わりしてもらうなどの対応が適切ですが，Bの範囲になると，リスク自体が生じにくい事業形態に変えるなど，根本的な対応も考えるべきです。一方，Cのリスクなら，わざわざ対策を講じるまでもなく，リスクを許容するのが適切な対応です。また，Dのものは，矢印のように確率や影響を下げる対策によって，Cの許容できるリスクに変えることができます。

では，火災への対応を例に考えてみましょう。万一発生した場合の損害は非常に大きいですが，めったに起こるものではなく，絶対に火災が起きないように予め対策をとることも現実的ではありません。この場合は，火災が発生した際の損失を他の組織にも分担させるなどの対応が適切です。